

1. 教育の責任

大手前大学の教育目的・使命、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに則り、Knowing、Doing、Being のディプロマポイントを念頭において、学修成果を「〇〇できる」という形で可視化、実質化する。難しいことをわかりやすく理解させ、かつそれを自らの知識・技術として活用できなければならない。そのために、どこまで理解できたか、を自己判断できるよう、ルーブリックを作成し、最初に学ぶ前の自分の状態、最後に学び終えた時点での成果を記入してもらう。さらにその自己判断が正しいかどうかの確認テストを行う。そのような形で可視化を行っている。

2. 教育の理念

大手前大学の教育理念を念頭にして、専門領域である歴史学を通して学問とは何か、リベラルアーツとは何か、歴史学とは何か、歴史学を学ぶことによってどのような思考方法が得られるのか、などを理解し、大学での学びや将来に活かせるようにすることを教育の理念としている。

3. 教育の方法

担当している総合科目の「史学」のディプロマポイントは主に Knowing の DP1（教養と専門知識）、DP2（知識・情報を活用する力）である。対面授業を主とし、教材提示型動画を復習用として提供している。歴史学の考え方や研究方法、歴史学研究の歩みなどをわかりやすく講義する。歴史学は、第一に過去の出来事が実際にどのようにして起こったのか、という歴史事実の解明が必要である。そのための学問的研究方法について解説する。次いでその出来事の歴史の意味は何か、なぜそのようなことが起こったのか、ということの解明が必要である。それこそが「真理」である。「真理」の追究こそ科学である。また歴史とは過去の出来事ではあるが、私たち人類の様々な営みが積み重なっている。「失敗は成功のもと」ということわざ通り、多くの失敗や成功が記録されていて、そこから学ぶべき点は限りがない。歴史を学ぶもう一つの意味がそこにある。なぜそうなったのかという「真理」を追究するとともに、それを今後の社会の創造に活かすことを学んでもらいたいと考えている。

授業に臨んでは、前年度の授業アンケートの評価を反省材料とし、時間外学習時間の実質化のため毎週の課題の内容を工夫したり、知識に加えてさまざまな能力の向上のため、教室内で意見発表を促したり、el-Campus に質問アンケートを設置して積極的に発言できるようにしている。参考資料として、有益な図書や論文、動画などの WEB サイトの URL を紹介するとともに、PC 必携化がすすみ、授業内で WEB サイトにアクセスさせて資料・論文を読んだり動画を見たりして、学修が深められるようにしている。昨今は動画の WEB サイトが好評である。

4. 教育の成果

教育の成果については、毎授業の課題の採点や各回アンケート、レポートで確認するとともに、最初と最後にルーブリックによる到達レベルの自己診断を記入させている。合わせて、客観的評価を行うためルーブリックの内容を確認するテストを実施している。大学授業評価アンケートでは、大学全体の評価を基準として自身の科目の評価を行い、授業外学習時間などの伸長も測っている。受講者の変化によって評価は一様ではないが、自由記述で「このままでよい」「わかりやすく学べた」など一定の好意的意見をもらっている。

5. 改善への努力と今後の目標

大学授業評価アンケートでは、教員の熱意は感じてくれているようだが、授業を全体としてどう評価しますか、という項目ではいつも平均値となっている。教材などは、やや平均点を上回り、効果的な資料作りは一応できていないのではないか、と思う。しかし、さらに可視的なわかりやすいものを提示して、興味を抱かせるように心がけたい。ディプロマポイントは先述のように Knowing であるが、コンピテンシー要素では論理的思考力・分析力・プレゼンテーション力の向上も意図している。プレゼンテーション力を伸ばすために授業中に質問をしに教室を回っているが、なかなか答えてくれない。そのため el-Campus の授業教材にディスカッションを設けて、記入する形での意見発言の場を設けたが、ここ数年 SNS 上のトラブルを警戒する世代が入学してきたためか、これも積極的な書き込みが見られない。これが

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：現代社会学部 名前：川口 宏海 作成日：2025年12月25日

今後の課題である。

このほか大学授業評価アンケートによって学生からの評価を受け、教員同士の授業見学によって教員からの評価を受けて、改善への材料としている。

昨今は、世界中が新たな「戦争の世紀」に入りつつある。歴史は日々生み出されている。現代の出来事にも注目し、分析し、過去からの帰結としてどのように評価し、それを踏まえてどのような未来創造に向かうべきなのか。歴史学を学ぶことによって、この課題に取り組む契機となるよう、より魅力ある授業づくりに努力していきたい。

【添付資料】